

福島の子ども保養プロジェクト活動

1 年レポート 2012 年度



福島県生活協同組合連合会 福島県ユニセフ協会 福島大学災害復興研究所

ごあいさつ



2011年12月から実施してまいりました「福島の子ども保養プロジェクト」、「コヨット！」は、放射能汚染に悩む子育て世代に明るい希望と勇気を与え、高く評価されています。

全国の皆様のご支援で実施できました未就学児対象103回、就学児対象10回、他県生協の取り組みの特別企画39回、幼稚園・保育園単位のおもいきり外遊び240回など、合計すると392回、13,731人とほんとうにたくさん子どもたちと保護者を保養にお連れすることができました。

全国の生協関係者、ユニセフ関係者、諸団体の皆様の心温かいご支援とたくさんのボランティアのスタッフの皆様の協力に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、原発事故がまだ終わっていないということは、私たち福島県民にとっては疑いようのない現実です。けれども国民一般の意識の中で、福島原発災害はすでに過去の出来事になりつつあるのではないかと懸念を、私たちは抱かざるを得ません。

福島がだんだんと忘れられていくのではないかという「風化被害」を心配する人も増えています。

実際は、原発事故の被害は日ごとに拡大しているとさえ言うべきです。

いまなお16万人余の県民が県内外に避難しており、そのうち6万人余は県外に避難しています。

今、福島県内で、保養を必要とする対象地区の0歳から14歳の人口は135,719人であり、また未就学児は38,797人ですから、全ての企画を合計しても子どもだけで対象人口の約7%、週末保養に至っては約4%の子どもにしか寄り添うことができていないという状況です。

また、週末保養にご応募いただいたのは7,310組で、週末保養に参加いただいたのは1,024組ですから、実に競争率は7.13倍という状況です。

こうした状況の中、これまでご支援をいただいていた団体に、引き続きのご支援をお願いしている次第です。

さらに、新たな支援の輪も広がってきました。

そうした数多くのご支援のもと、コヨット！を2013年度も継続して取り組めることができます。

安心して住める福島を取り戻すため、避難している人たちが一日も早く故郷に戻ってこれるようにするため、今後もご支援よろしく願いいたします。

福島の子ども保養プロジェクト代表 西元 幸子



「コヨット！」とは、子ども保養プロジェクトのこどものほよのプロジェクトの保養に「来よう！」と誘う意味も含まれています。

Contents

コヨット！の概要

目的・今後のとりくみ	1
運営体制	2

プロジェクト活動報告

プロジェクト実施状況	3
週末保養参加者分析から	4
参加者の声	6
対談「細く長く保養の受入を」	8

臨床心理士会のプロジェクト	9
そとあそびプロジェクト	9
収支決算報告	10

支援活動で支えてくださったみなさま

支援活動	11
他県受入企画による支援	12
協力団体・物資提供	13

コヨット！の概要

■目的

福島の子ども保養プロジェクト（愛称：コヨット！）では、東京電力福島第一原子力発電所の事故による被災地域の子どもおよびその保護者を対象に、週末や長期の休み期間中に放射線の低い地域で過ごしてもらう活動を2011年12月から実施しています。

主催は、福島県生活協同組合連合会、福島県ユニセフ協会、福島大学災害復興研究所です。日本生活協同組合連合会をはじめ、全国の会員生協、公益法人日本ユニセフ協会などが協力をしています。全国の生協が取り組んでいる「つながろうCO・OPアクションくらし応援募金」で集まった募金や、協力団体等による寄付金によって企画・実施されています。

■4つのコース

コヨット！では、子どもの年齢や目的に合わせて現在4つのコースを設定しています。いずれのコースも、子どもや保護者が心身両面から保養することを目指しています。

- 1 週末保養企画** 就学前（0歳～小学入学前）の子どもと保護者を対象に、福島県や山形県の温泉宿に1泊2日で出かけ、子どもたちの外遊びと家族のリラックスタイムを支援
- 2 就学児週末保養企画** 小学生以上中学生未満の子どもたちを対象に、東京ディズニーランドや体験施設等に出かけ、子どもたちの様々な体験を支援
- 3 長期休暇保養企画** 全国の受け入れ団体が企画した保養プログラム。小学生以上中学生未満の子どもたちを対象に（参加可能な年齢は各企画による）、長期の休み期間中に実施。2013年4月からは体験型の企画が満載。
- 4 おもいきり！そとあそびコース** 幼稚園や保育園の外遊びを支援

■今後のとりくみ

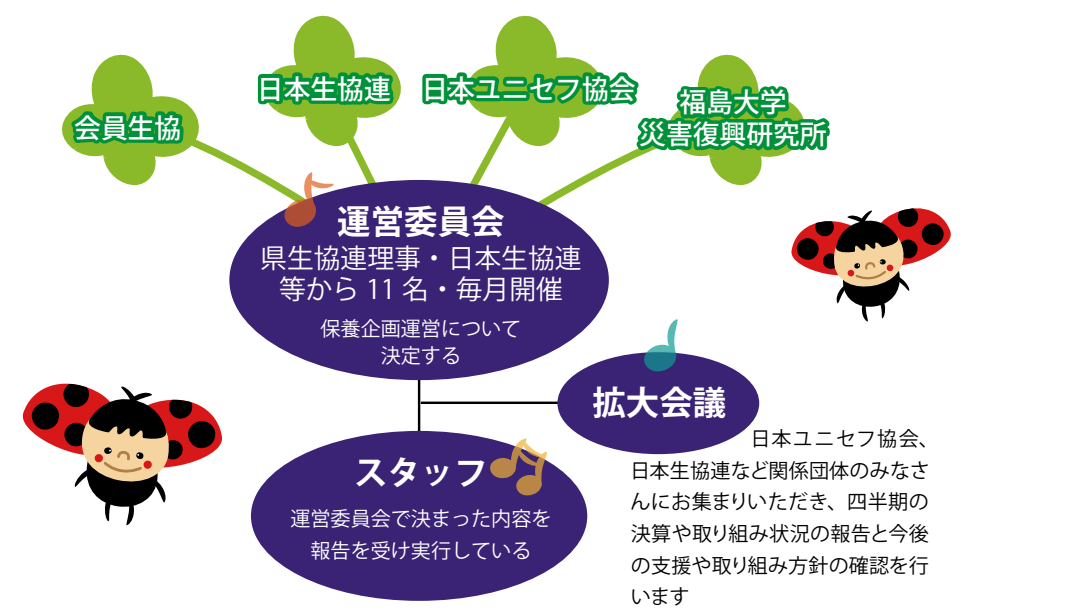
コヨット！は2年目を迎えて、地域のグループで保養にいたいという声や障害をもつ子どもを保養にいかせてあげたいという声など新たなニーズが出てきています。できるところから始めようと、2012年秋から福島県臨床心理士会の協力を得ながらリピーターコースや平日保養企画をおこなってきました。また、ボランティアとして参加したいという声を受けて、ボランティア・スタッフ研修会を1月に開催しました。2年目も、参加者のニーズに応えながら、運営委員会で新たなコースやプランを企画していきたいと考えています。

■期待される効果



コヨット！の概要

プロジェクト運営体制



プロジェクト活動報告

プロジェクト実施状況 (2013年3月末までの企画数392企画 参加人数13,731人)

福島の子ども保養プロジェクト

これまでの実施状況		
2011年12月～2013年3月		
週末保養企画	103回	参加人数：3,688人
うち平日保養企画	6回	参加人数：104人
就学児週末保養企画	10回	参加人数：627人
長期休暇保養企画	39回	参加人数：1,269人
実施期間		
2011年12月～2013年3月31日（1年4ヶ月）		
週末保養企画	：ほぼ毎週末	1泊2日
平日保養企画	：ほぼ毎月1回	1泊2日
就学児週末保養企画	：ほぼ毎月1回	1泊2日
長期休暇保養企画	：夏休み等に	2泊3日～1週間程度

主な費用

事前打ち合わせ費、参加者およびスタッフの宿泊費、バス借り上げ代、旅行保険費、通信費、会議費、広告費、等。



『おもいっきり！そとあそび』プロジェクト

対象	実施団体
環境放射線量が高い福島県中通りの 保育園・幼稚園の園児	主催：福島県ユニセフ協会／福島県生協連 共催：福島交通株式会社 福島交通観光株式会社
実施期間	
期 間：2011年5月～2013年3月 企 画：240企画 参加人数：8,043名	

■週末保養参加者分析から見えてきたこと

コヨット！アドバイザー 西崎 伸子（福島大学行政政策学類准教授、災害復興研究所）

コヨット！では、参加者のニーズを把握するために、参加者全員に毎回アンケートを書いていたでいます。アンケートの目的は、結果をふまえて、ニーズの変化を理解し、企画に反映させること、このプロジェクト内で解決できない問題への対応を自治体や県・国に求めていることです。

以下は、2012年1月から、2013年1月までに週末保養の参加者に対して実施したアンケートを二つの報告書としてとりまとめた中から、とくに重要な項目を抜粋したものです。また、アンケート

には自由記述欄があり、参加者の率直な気持ちが表示されていますので、その一部もご覧ください。

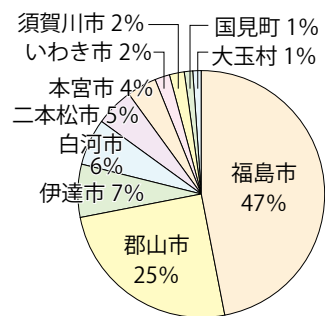
このアンケート結果が当事者と支援に携わる人々が共に手を取り合い、困難な問題の解決にとりくむための一助になればと願っています。

*アンケートの集計結果は、以下のHPから全文を見る事ができます。

<http://fukushimakenren.sakura.ne.jp/>

1. 現在のお住まいについて

参加者の約半分が福島市から、4分の1が郡山市からの参加です。また、中通り北部地域（福島市、伊達市、二本松市、桑折町、川俣町）の参加者が56%と半数以上を占めています。集合場所へのアクセスのしやすさ、生活環境の空間放射線量の高さ、情報の入手しやすさなどが影響していると考えられます。



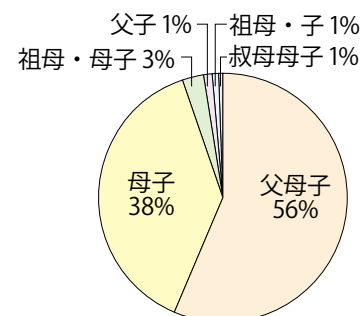
*第一報、第二報の合計数から作成

*この他、相馬市、天栄村、泉崎村、田村市、浪江町から4世帯、桑折町、西郷村から3世帯、矢吹町、三春町から2世帯、川俣町、塙町、喜多方市から1世帯が参加しています。

2. 参加者について

父と母、子どもでの参加がもっとも多いのですが、母子での参加が次に多いのが特徴です。父親

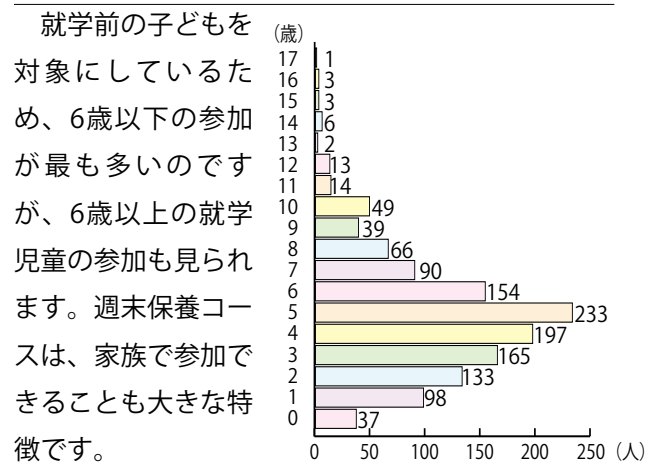
が週末に仕事をしていたり、付添いの保護者1名の参加費が無料であったこと（2013年3月まで。4月から有料）が要因と考えられます。



*第一報、第二報の合計数から作成

*曾祖母・祖母・子、祖父祖母・子、祖父祖母・父母子が1世帯ずつ

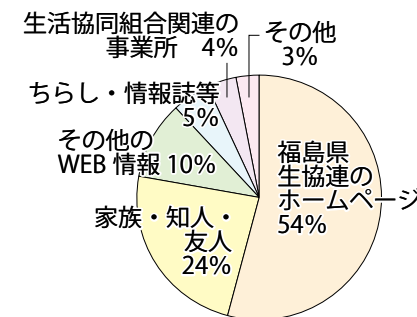
3. 子どもの年齢について



徴です。

4. 情報源について

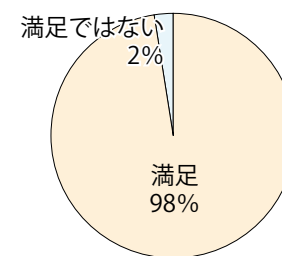
福島県生協連のホームページを見て参加した人が半数以上と最も多く、その次が家族や知人からの口コミでした。パソコンやスマートフォンを利用していない人への広報が課題ですが、現状でも、応募者多数のために毎回抽選になっています。より切実な人への周知が必要になっています。



*第二報から作成

5. 保養企画に満足していますか？

非常に高い満足度です。満足できない理由として、スケジュール、費用、内容が具体的にあげられていました。

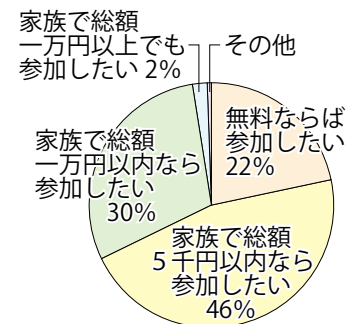


*第一報、第二報の合計数から作成

6. 短期保養（1泊2日の場合）に参加する費用

1万円以内なら費用負担をしても参加したいという回答が半数を超えています。これまでは全国に呼びかけられた募金によって実施をしてきま

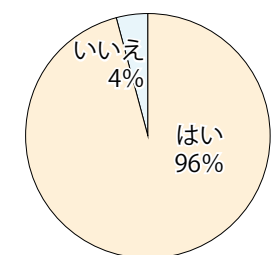
したが、2013年4月からは、プロジェクトの継続のために費用の一部を参加者にご負担していただくことになりました。



*第一報より作成

7. 放射能汚染で子育てに関して不安はありますか？

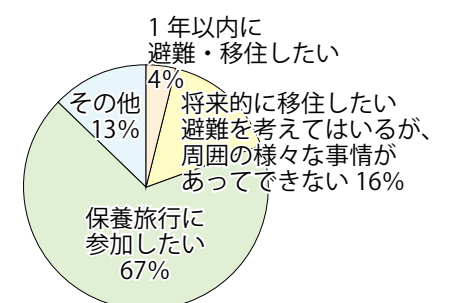
子育てに関する不安感は、事故直後から高いままです。



*第一報、第二報の合計数から作成

8. 不安がある場合、どのように対応したいですか？

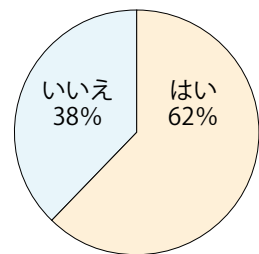
県内に留まり、保養旅行に参加したい人が7割弱でした。



*第二報より（複数回答可）

9. 相談相手がありますか？

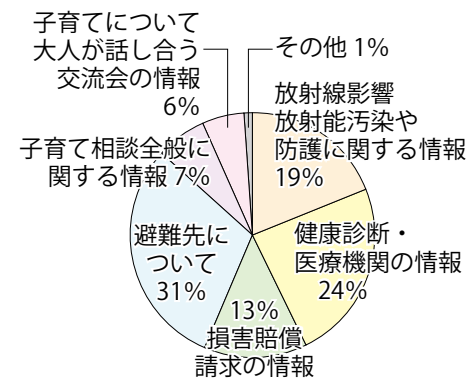
相談相手がいる人は6割でした。そのうち、45%がママ友などの友達です。配偶者や家族の割合は26%でした。医師や保健師などの専門家に相談する人は5%しかいませんでした。



*第二報より作成

10. 今後どのような情報提供を希望しますか

放射線防護、健康診断、損害賠償請求、避難先など多岐にわたる情報が求められています。情報を一元化して、住民に発信する場、双方向で話し合う場がいまだにないことが問題です。



*第二報より作成。複数回答可

■参加者からの声

のびのび外遊びが嬉しい

私の住んでいる所の近くの公園は放射線量が高く今やっと除染をしている最中です。なので今回参加して思いっきり外遊び等ができてとても子どもたちは喜んでいました。こういう貴重な機会を与えて頂いてとても感謝しています。また是非子ども保養プロジェクトに参加してみたいです。楽しい旅をありがとうございました。

幼稚園生の子には外遊びをさせていないので雪が降っても雪遊びもなかなか思うようにできずにいました。今日はおもいきり雪に触れ、ソリすべりが出来、とてもうれしそうな顔を見ることが出来て嬉しかったです。温泉もとても気持ちよく、心身ともにリフレッシュできました。おもち

つき体験とつきたてのおもちもお年玉プレゼントみたいで嬉しかったです。ありがとうございました。子供たちは雪遊びもったしたかったー。と名残惜しんでいました。

雪が降ってとても寒かったのですが、運動会子どもも大人もとても楽しかったです。震災後、公園で知らない子どもたち同士があそぶという風景がなかなかなかったので、久しぶりに震災前に戻ったような感じでした。おとなはとても寒かったですが、冬でもこういったように福島では心の気持ち的にやりにくい外遊びをさせてもらい、ありがとうございました。久しぶりに楽しめました。

未就学児が参加できる企画が嬉しい

未就学児を対象にしたプロジェクトはほとんどなく、どうしたらいいか困っていました。このプロジェクトに参加させていただいて本当に感謝し



ています。外遊びをしたくてもなかなかできない状況です。今日は時間制限もなく思いきり深呼吸して遊びました。全国の皆様のおかげで楽しい2時間を過ごすことができました。ありがとうございます。今後とも支援くださいますようよろしくお願いいたします。

未就学児の保養旅行はほとんどないので今回参加してとても助かりました。これからもさまざまな地域で企画してほしい。またもう少しイベントがあったり、遊ぶ所にいてほしい。

未就学児、小学低学年を対象のこういった保養等は本当に少なく、このプロジェクトをHPでみた時はとてもありがたいと思いました。勉強会交流会も保養旅行の中に組んでいただくと（約1時間の目安で）助かります。最後に子どもたちのとても楽しい笑顔が光っていてこの度ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。お世話になりました。

支援をしてくださる方々へ感謝の気持ち

今回初めて参加しましたが、すごく良かったです。乳児と幼児をつれていて不安でしたが、スタッフの皆様にも支えて頂いて楽しく過ごす事ができました。あたたかくなったら、もっと外遊びがしたいです。砂場とか公園とかでも。もっとた

くさん参加したいです。

ボランティアの方々が多数参加してくださり、心暖かな存在を感じました。生協という団体のその価値や存在感を改めて見直しました。お世話になりありがとうございました。放射能で積もるストレスが洗い流せました。

プロジェクトの継続を望む気持ち

母子家庭ということもあり、自主避難することが出来ず、ずっと福島市内で過ごしてきました。外遊びや食生活の制限がある中で、1泊2日でしたが母子共に思いっきり楽しむ事が出来ました。また是非参加したいのでこのプロジェクトを続けてほしいです。そしてお友達にもこのようなプロジェクトがあるということをひろめていきたいと思っています。全国のみなさん、生協連のみなさん、このプロジェクトに参加されているスタッフの方、皆さんに感謝いたします。本当にありがとうございました。

放射線の影響を気にしながらもなかなか今の生活から避難することも難しく…。今回参加させていただいて本当に感謝しています。残念ながら雨のためほとんど外遊びは出来なかったのですが、気持ち的にはとてもリラックスできました。放射線の問題がある限りこのようなプロジェクトも続けていくことを願います。

■対談

「細く長く保養の受け入れを」

神奈川県ユニセフ協会事務局長

谷杉 佐奈美さん

×

【聞き手】コヨット！アドバイザー

西崎 伸子



「ふくしまカフェ」は神奈川県内に避難している人たちの交流の場になっています（みなとみらい線馬車道駅「驛カフェ」内）

谷杉さんは、2012年の春と夏、2013年の春とこれまで3回にわたりコヨット！長期休暇保養企画の受け入れをしてられました。まず、保養の受け入れを始めたきっかけを教えてください。

谷杉 3.11のときから何かできないかとずっと考えていました。受け入れの直接のきっかけとなったのは、2011年夏に市民団体が企画した保養プログラムに参加した子どもが発した「なんで私だけが逃げなければならないの？」という言葉や神奈川県に母子避難していた母親の苦悩を知ったことです。何もできないくやしさもありましたが、できることからやろうと考えて「守りたい・子ども未来プロジェクト」を立ち上げました。受け入れはこちらですべてやるので、現地で送り出してくれる団体を探していたときに、コヨット！のことを知りました。

長期休暇保養企画の第一号ということで、第一回目は苦労されたのではないのでしょうか。

谷杉 一回目は気持ちでやっていた部分があり、プログラムをこなすだけという状態でした。回数を重ねるうちに、どんどんシンプルになっています。何のためにやるのかという目的をスタッフが共有していれば、どういう人が何の役割を担えばよいのかが決まってきます。わたしはこれまでさまざまな組織で、農業体験ツアーやボーイスカウトのキャンプなどにかかわってきましたが、保養プロジェクトの特徴は、日常生活の延長上であるということです。日常とかけ離れた特別なイベントをたくさん準備する必要はないと思っています。

神奈川県の保養企画は、多くの団体やボランティアスタッフがかわるのが特徴ですね。

谷杉 いろんな団体がかかわり、協力者の輪を広げるメリットの一つは、経費を抑えることができると

ということです。しかし、たくさんの組織がかかわればかわるほど、大人の事情でプログラムが運営されるようになります。「子どもは楽しめているのか？」を常に確認しておくことが大切です。いつも一日の終わりに子どもと接する時間が最も長い学生ボランティアとミーティングをします。一日のスケジュールはどうだったのか、子ども一人ひとりの様子はどうだったのかを話し合います。これがとても良い時間になっています。2013年春のテーマは「食育」でした。日中に学んだことと、実際にテーブルに出てくる食材が一致していないことを指摘した学生ボランティアもいました。スタッフみんなが一日を振り返り、改善できる余裕がでてきたのも回を重ねたからかもしれません。参加する子ども、学生ボランティア、スタッフ全員が成長しています。

受け入れは子どもだけですが、福島県の保護者とのかわりはありませんか

谷杉 2013年春の受け入れ企画から事前にメッセージシートを子どもや保護者に記入してもらっています。どのような子どもたちがどのような思いで参加するのかや、保護者の期待がわかり、スタッフのモチベーションが高まります。保護者とのコミュニケーションも続けていきたいと考えています。

最後に今後の予定を教えてください。

谷杉 2013年夏は連合神奈川主催で実施します。すぐそばに海がありますので、自然を活用したプログラムを作っていきたいです。わたしはここでも学生ボランティアなどスタッフをコーディネートする役割でかわります。3.11当時はテレビをみながら何かできないかと歯ざしりをしていました。そこが原点です。これからも細く長く続けていきたいと思っています。

遊びを通して子どもや保護者の心のケア



福島県臨床心理士会東日本
大震災対策プロジェクト
(日本ユニセフ協会支援)

代表 成井 香苗さん

私たち臨床心理士会のプロジェクトは、福島県生協連の「福島の子どもの保養プロジェクト」に参加し、「親子遊びと親ミーティング」の支援を行いました。主に猪苗代町「リゾートインぼなり」の時に、臨床心理士2人・保育士2人で出かけ、楽しい親子遊びを行い親子のストレスを解消し親子のきずなを強め、保護者ミーティングでは親御さんたちの福島で暮らすうえでの不安や悩みを語り合い、再び元気に暮らす活力をお互いの分かち合いで感じてもらう目的です。

子どもたちは元気に身体を動かし大きな声を出して活発に活動していました。親とかわす笑顔が輝きました。その後親ミーティングを行いましたが、放射能への不安が多く語られ、これまでの地域や家庭における除染作業、子どもを公園などの外で遊ばせないように制限させてい

る苦しさ、今後福島県内に在住していて良いのかという葛藤などが語られていました。また、時がたつにつれ地域住民間の認識や考え方の違い、加えて家族間での考え方の違いが生じ、そのような違いによってコミュニケーションがとりにくくなっているのが心配されました。そして、このような苦しさやつらさを語る場所が無いことのつらさも話される参加者もいました。やはり同じような悩みを抱えている方々が想いを共有する場が依然として必要とされており、そのような語りの場があることで日常生活が安定し、個々人のそれぞれの復興の一步が踏み出せるように感じました。

課題としては、ゆっくりすることも大切な保養の中で、この支援には時間が1時間半とられるのでどうスケジュールを組み立てるか工夫が必要です。これからも皆さんと考えながら福島の子どもの幸せを育んでいきたいと思っています。

表：親子遊びと親ミーティングの支援
(2012年3月から2013年3月まで)

派遣スタッフ			参加数		
派遣回数	臨床心理士	保育士	子ども	保護者	総数
10	21	19	139	129	268

『おもいっきり! そとあそび』プロジェクトに参加して

福島市 福島文化幼稚園



学校法人福島文化学園
園長 日下 将孝さん

園での普段の外あそびは今でも時間的に規制をしなければならない状態です。

野外に出るだけで、人は五感を刺激されます。ましてや幼い子どもたちにとっては、とってもいい経験です。原発事故という不幸な事故により、ご支援を得てはじまったことではあり



ますが…。できればこれを機会に、今まで以上に積極的に子どもを外で遊ばせて、心身の発達を促したいです。

天候に恵まれ元気に外遊びができることに、お蔭様だと申し上げたい。園としてなかなかこのような機会を作るのは難しく、このような支援を頂いてみんないっしょに連れてこれたことに感謝申し上げます。出来ればこれからもご支援をお願いいたします。

■福島県の保養プロジェクト 収支報告 (2012.3.31現在)

収入の部	
(単位：円)	
科 目	金 額
全国の生協からの募金	50,717,522
ユニセフ協会支援金	3,144,580
寄付金計	13,928,759
茨城県生協連	600,000
コープやまぐち	1,000,000
I Y C 茨城実行委員会	231,467
生協ひろしま九条の会	15,000
みなと医療生協	1,500,000
大阪府連	50,000
労働福祉基金協会	200,000
東北労働金庫顕彰	300,000
コープしが	5,233,115
パルシステムいばらぎ	300,000
コープCSネット	3,000,000
石川県立飯田高等学校同窓会	1,294,000
滋賀県立彦根東高等学校新聞部	205,177
雑収入計	2,040,653
旅行戻し	1,884,350
コープやまぐち謝金	50,000
参加費	32,000
マグネット販売益	50,067
キャンセル者返金	△ 217,500
イベント募金	201,736
茨城県生協連謝金	40,000
受取利息	1,242
収入計	69,832,756

※ユニセフからの支援金の表記のところに直接支払い分の下記金額は含まれていません。

ユニセフ	そとあそび	17,288,150円
	週末保養	14,470,154円
合	計	31,758,304円

支出の部	
(単位：円)	
科 目	金 額
スタッフ人件費	3,086,000
通信費	647,352
プロジェクト費	50,666,972
広告宣伝費	76,650
お弁当代	682,309
保険料	838,459
支払手数料	42,630
雑費計	5,481,835
キッズコーナー玩具	251,650
D V D 第 2 弾作成費	1,029,000
ホームページ関連	904,090
バス用 D V D	25,643
薬品・衛生用品	175,033
パンフ・名前シール等	953,238
缶バッジマグネット	504,000
パソコン代	137,158
菓子・ゲーム他	307,442
募金箱	226,695
スタッフジャンパー等	527,625
クリアファイル	129,150
わらび座招待	175,000
講師派遣費	31,500
その他	104,611
支出計	61,522,207
差引残高	8,310,549



■支援で支えてくださったみなさま

高校生がとりくむ支援活動

彦根東高校新聞部では「福島をつなぐ」という連載を通して様々な活動をしてきました。避難者の会に参加したり、滋賀にきたコヨット！の子どもたちと遊んだり、実際に福島に向かい取材をしたり、また、学園祭や彦根市で開催された「ゆる



2012年夏の福島の子どもの保養プロジェクトinかんさいのキャンプに新聞部がボランティアとして参加

医療生協が取り組む支援活動

みなと医療生協では、東日本大震災直後から私たちができることとして、支援金を全組合員57000人に呼びかけて送りました。

2012年3月、遠く離れている名古屋の私たちも復興が思うように進まないことに心を痛めていた時、福島医療生協の西元副理事長をみなと医療生協のフェスタにお呼びし、実情を伺う機会を設けました。その話の中で特に福島の子どもたちが戸外で遊べない実情やお母さんたちがストレスをためていることをお聞きし、2012年度は子どもたちとお母さんたちを守る「福島の子ども保養プロジェクト」への支援を柱に取り組むこととしまし



港西支部被災地支援バザー

滋賀県立彦根東高等学校新聞部

キャラ祭り」では福島の子どもたちのために募金を募りました。

連載を始めた理由は、滋賀県にいる私たちが被災地のために何ができるかを考えたとき、私たちにできることは自分たちが作っている新聞という媒体を通じて、被災者の方の声を伝えること、また、この震災を風化させないことだと思ったからです。新聞を読んだ生徒をはじめの多くの方から反響をいただき、この活動にやりがいを感じています。今後もこの連載を続けていきたいと思っています。



(高田 美希)

みなと医療生活協同組合

た。そのために、医療生協の組合員が各地域でつくる支部が病院や各診療所前、サロンなどでのバザーや募金活動、福島県のりんごやかまぼこなどの東北物産品の販売などを行い、年間を通して支援金づくりに取り組みました。

また、秋には「被災地をみる・まなぶツアー」を組んで40人で福島県と宮城県をお訪ねしました。まだまだ、復興半ばという思いを強くしたので、今後も引き続き応援していきたいと思っています。

くらしのたすけあい委員会委員長 外山 幸子



まちづくり・健康づくりフェスタ

■支援で支えてくださったみなさま



福島県外受入企画による支援（2012年4月1日～2013年3月31日）

2012	
3/30～4/2	子ども保養PJ in 神奈川 守りたい・子どもプロジェクト
4/21～22	子ども保養PJ in いばらき 2012年国際協同年茨城県実行委員会
7/14～15	子ども保養PJ in いばらき（野球） 2012年国際協同年茨城県実行委員会
7/22～26	子ども保養PJ in 滝川
7/24～28	子ども保養PJ in 砂川 コープさっぽろ
7/26～28	子ども保養PJ in 新潟 新潟県生協連、福島の子ども保養プロジェクト in 新潟実行委員会
7/28～31	子ども保養PJ in 富山 富山県生協連
7/29～8/2	子ども保養PJ in ひめじ コープこうべ・兵庫県ユニセフ協会・神戸YMCA
7/30～8/3	子ども保養PJ in 東川町 コープさっぽろ
7/31～8/5	子ども保養PJ in はこだて 被災地の子どもを応援する会「ほんわか」（共催：七飯町・コープさっぽろ）
7/31～8/4	子ども保養PJ in かんさい コープしが、ならコープ、奈良県生協連、大阪府生協連
8/1～3	子ども保養PJ in あきた コープあきた
8/2～3	子ども保養PJ in あおもり（ねぶた） コープあおもり
8/6～9	子ども保養PJ in いわた 岩手県生協連
8/10～12	子ども保養PJ in 富山 富山県生協連
8/14～16	子ども保養PJ in 神奈川 神奈川県生協連
8/17～21	子ども保養PJ in 東川町 コープさっぽろ
8/24～26	子ども保養PJ in 南会津 福島県生協連、福島県ユニセフ協会、福島大学、南会津町
8/21～23	子ども保養PJ in おいでよ神奈川 連合神奈川、神奈川県労協、Vネット、神奈川県生協連、中央労金神奈川県本部、全労済神奈川県本部

8/24～26	子ども保養PJ in さいたま（サッカー） 福島の子ども保養プロジェクト埼玉実行委員会（埼玉県生協連）
9/8～9	子ども保養ラストサマーフェスティバル 福島の子ども保養プロジェクト福島大学コヨット! チーム
9/15～16	子ども保養PJ in いばらき（バスケ） 2012年国際協同年茨城県実行委員会
9/15～17	子ども保養PJ in しずおか コープしずおか
9/22～23	子ども保養ささかみdeまんま作り パルシステム生活協同組合連合会
10/6～8	子ども保養PJ in おかやま 岡山県生協連
10/27～28	子ども保養PJ in 茨城 第1弾
11/10～11	子ども保養PJ in 茨城 第2弾
11/24～25	子ども保養PJ in 茨城 第3弾 いばらきコープ・茨城県生協連
11/24～25	子ども保養PJ in あいづ コープあいづ／福島の子ども保養プロジェクト
12/8～9	子ども保養PJ in パルシステムいばらき パルシステムいばらき
12/22～23	子ども保養PJ in あいづ コープあいづ／福島の子ども保養プロジェクト
12/22～24	子ども保養PJ in 岐阜 コープぎふ

2013	
2/10～11	子ども保養PJ in 茨城 第4弾
3/9～10	子ども保養PJ in 茨城 第5弾 いばらきコープ
3/25～29	2013年春休み・福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川 2013年春休み・福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川実行委員会
3/27～28	子ども保養PJ in ゆめコープ パルシステム神奈川ゆめコープ
3/27～29	子ども保養PJ in みえ コープみえ
3/29～31	子ども保養PJ in とやま 朝日町 富山県生協連



協力団体（2012年4月1日～2013年3月31日）

日本生活協同組合連合会
公益財団法人日本ユニセフ協会
認定特定非営利活動法人 世界の子
どもにワクチンを 日本委員会（JCV）

その他団体

日本労働組合総連合会福島県連合会
福島県労働福祉協議会
東北労働金庫福島県本部
全労済福島県本部
福島県漁業協同組合連合会
福島県森林組合連合会
磐梯高原リゾート・インぼなり
協和交通株式会社
トランスパック株式会社
株式会社山川印刷所
JTB東北 法人営業福島支店
福島交通観光株式会社
株式会社 SAGA DESIGN SEEDS
石川県立飯田高等学校
滋賀県立彦根東高等学校新聞部

生協関連

福島県生活協同組合連合会会員生協
コープふくしま、コープあいづ、
福島県南生協、パルシステム福
島、あいコープふくしま、福島医
療生協、福島中央市民医療生協、
郡山医療生協、会津医療生協、浜
通り医療生協、福島県学校生協、
福島大学生協、福島県労済生協
生活協同組合コープさっぽろ
北海道大学生生活協同組合
生活協同組合コープあおもり
青森県生活協同組合連合会
生活協同組合コープあきた
秋田県北生活協同組合
みやぎ生活協同組合
宮城県生活協同組合連合会
生活協同組合共立社

山形県生活協同組合連合会
いばらきコープ生活協同組合
生活協同組合パルシステム茨城
茨城県生活協同組合連合会
とちぎコープ生活協同組合
茨城県学校生活協同組合
生活協同組合コープぐんま
生活協同組合パルシステム千葉
生活協同組合ちばコープ※1
千葉県生活協同組合連合会
生活協同組合さいたまコープ※1
埼玉県生活協同組合連合会
東京都生活協同組合連合会
東都生活協同組合
生活協同組合コープとうきょう※1
北区・荒川区・足立区生協連絡会
生活協同組合コープかながわ※2
生活協同組合うらがCO-OP
富士フイルム生活協同組合
神奈川県生活協同組合連合会
川崎医療生活協同組合
全日本海員生活協同組合
生活協同組合市民生協やまなし※2
生活協同組合コープながの
長野県生活協同組合連合会
生活協同組合コープにいがた
生活協同組合コープしずおか※2
富山県生活協同組合
生活協同組合コープいしかわ
生活協同組合連合会 コープ北陸事業連合
福井県民生活協同組合
生活協同組合コープあいち
みなと医療生活協同組合
生活協同組合コープぎふ
生活協同組合コープみえ
生活協同組合コープしが
滋賀県生活協同組合連合会
わかやま市民生活協同組合
京都生活協同組合
大阪いずみ市民生活協同組合

大阪よどがわ市民生活協同組合
生活協同組合おおさかパルコープ
大阪府生活協同組合連合会
市民生活協同組合ならコープ
生活協同組合コープこうべ
日立造船因島生活協同組合
生活協同組合ひろしま
生活協同組合連合会 コープ中国四国事業連合
鳥取県生活協同組合
生活協同組合しまね
生活協同組合コープやまぐち
生活協同組合コープかがわ
香川県庁消費生活協同組合
愛媛県生活協同組合連合会
生活協同組合コープえひめ
こうち生活協同組合
高知県学校生活協同組合
高知県生活協同組合連合会
生活協同組合連合会 コープ九州事業連合
エフコープ生活協同組合
コープさが生活協同組合
生活協同組合ララコープ
福祉生活協同組合いきいきコープ
生活協同組合コープおおいた
生活協同組合コープみやざき
生活協同組合水光社
コープ熊本学校生活協同組合
生活協同組合コープかごしま
生活協同組合コープおきなわ
日本生活協同組合連合会
日本コープ共済生活協同組合連合会
全国学校用品株式会社
株式会社コープクリーン
コープ情報システム株式会社
日生協企業年金基金
日生協健康保険組合
公益財団法人生協総合研究所
国際協同組合同盟（ICA）
IYC茨城実行委員会
全国消費者団体連絡会

※1 2013.3.21よりコープみらいに名称変更になりました ※2 2013.3.21よりユウコープに名称変更になりました

物資提供による支援

個人被ばく線量計寄贈

ならコープ・富山県生協連・茨城県生協連





福島大学
災害復興研究所



福島の子ども保養プロジェクト事務局

(福島県生活協同組合連合会内)

〒960-8106 福島県福島市宮町3-14 労金ビル4階

TEL 024-522-5334 FAX 024-522-2295

コヨット! 公式ウェブサイト <http://fukushimakenren.sakura.ne.jp/>